

# 仏教法話

—心のひかり・人生のしるべ—

## 手をつなごう



## コロナ禍

新型コロナウイルスの感染が始まって、二年に  
なります。ワクチンができて接種が始まりましたが、デルタ株などの感染力の強い変異種が出現して、感染の勢いは留まるところを知らない状況です。全国の新規感染者は多い時は二万人を超え、あちこちの県で新規感染者数がこれまでの最大であることが報道されています（令和三年八月現在第五波）。コロナに感染しても無症状の時期があり、その間に人にうつしてしまいます。それで拡大し、場合によっては急激に重篤化して死に至ることもあることが人々を不安に陥れています。

でも、これまででいろいろなことが分かってきました。たとえば感染の原因は食事等の時の飛

沫感染、何かを触つてその手を口に入れてしまう接触感染、くしゃみなどの飛沫が空気中を伝播するエアロゾル感染が主と分かってきました。ですから、人との接触を避けて、大人数の会食は我慢し、知らない人とは距離をとり（ソーシャルディスタンス）、外に出るときはマスクをして、何かに触ったときや、家に帰ったときは手指を消毒する、人が出入りする事務所などではドアノブや機器などの共同で使う場所を定期的に消毒する、このことによつて感染を防止することができるとです。

## 人間

人間はこれまで人と接触して交流し、自分を成長し、心を和らげ、文化を築き上げてきました。人は、文字や言葉や映像だけではなく、人と交

わることだ「何か」得られるということを知っています。学校は先生と生徒が交わり成長する場です。曹洞宗の修行はそれを最も良く表していて、僧堂で生活すると知らず知らずのうちに、海の中の「龍門」をくぐると魚が龍になるといふ言ひ伝えのように、立派なお坊さんになるのです。人間とは、人の間と書きますがこのことを実によく表していると思います。

ところがコロナの感染防止には、人と人との接触をなくすことが一番なのです。ここにいろいろな問題が生まれました。

まず、経済の問題です。人と人との交流の機会を作ってきたお店や、観光地やイベントに人が集まれなくなりました。交流のための移動手段となつてゐる列車や飛行機は、お客さまが激減して、危機的な状況になりました。そしてそれに関連する様々な企業が影響を受けています。

学校が臨時休校になり登校できなくなつたことがありました。コロナに生徒が罹ると休校です。オンラインを使った授業が取り入れられていますが、友人と一緒に勉強や部活や生徒会活動ができなくなつた子どもたちはかわいそうです。

お寺の関係でも、ご逝去された方を悼み人と人が慰め合つたご葬儀は、簡略化が進み、食事の機会もなくなりました。関連する業種も影響を受けています。

## 一重の苦しみ

コロナに罹つた人やクラスターになつた施設を誹謗中傷する人々がいます。SNSの匿名性を利用して、人を刺し傷つける言葉を投げつけます。コロナに罹つただけでも苦しみなのに、その苦しみに苦しみを積み重ねるように、人は人を傷つけ

るのです。

どうしてこのようなことが起きてしまうのでしょうか。

コロナに罹ったら困る、自分だけは罹りたくないという不安が、罹った人を誹謗中傷してしまうのでしょうか。

お釈迦さまは人間の不幸や苦しみの原因を「貪瞋痴」と示されました。「貪欲」（むさぼる欲）や「瞋恚」（怒りやうらみ）や「愚痴」（心の迷い）が人を苦しめ、ひいては自分を苦しめるのです。

### 手をつなごう

人間はみんなで助け合って、幸せで平和な家庭や楽しい仲間や地域社会を創って来ました。「貪瞋痴」により、「自分さえよければ」とか「自分だけは」と助け合うことを拒否すると、人は

苦しみ、家庭は壊れ、友達は離れ、地域社会の

つながりは薄れ、幸せや平和な社会はありません。

日本国民の人情はやさしく、みんなで助け合う心で仲良く結ばれていました。物が豊かになり、核家族化が進み、助け合う必要が薄くなった今、コロナは改めて助け合うことの大切さを教えてくれています。

手をつなぎましょう。おもいやりの心をもって手をつなぎましょう。手をつなぐ機会をつくりましょう。日本人みんなが丸い輪となつて手をつなぎあい、助け合えばきっとコロナ禍も乗り越えられるでしょう。そして、手をつなぐこととの大切さが分かったコロナの経験は、弱い人に心を寄せ、お年寄りに心を寄せ、地域のつながりをつくり、幸せで平和な社会を築くことにつながるでしょう。